

コムギなまぐさ黒穂病とその対策

5月下旬現在、病虫害防除所の巡回調査において、コムギなまぐさ黒穂病の発病穂を確認しています。

発病穂は健全穂よりやや小さく、小穂が開き（写真1）、子実の中には黒色の胞子が充満しています（写真2）。また、子実を押しつぶすとなまぐさい臭いがします。本病は子実内部の黒い胞子が露出しにくく、草丈が低くなる傾向があるため、発病株を圃場の外側から確認することが困難です。一方で、発病粒を収穫、乾燥・調製すると、コンバインや乾燥機等の中で病原菌胞子の色や臭いが健全粒に移り、品質低下をもたらします。

そのため、収穫時には、発病粒が混入しないように、①圃場内を見回り、発病株を抜き取る、②発病が認められた圃場の収穫・乾燥作業は、他の圃場が終了してから行う、③作業後はコンバインや乾燥施設等の清掃を徹底する、等の対策を行いましょう。

【次作の対策】

- ・一度発病すると防除が困難となるため、必ず種子を更新し、有効薬剤(表)を用いて種子消毒を行う。
- ・こぼれ種子が圃場に残留すると伝染源となることが多いので、畑圃場の場合は他作物を栽培し、こぼれ種子から発生した小麦の株を除去する。
- ・田畑転換できる圃場は水田にし、土壌中の胞子とこぼれ種子を死滅させる。

表 コムギなまぐさ黒穂病に登録のある主な種子消毒剤（平成27年5月27日現在）

薬剤名	成分名	系統名 ¹⁾	FRAC コード ²⁾	使用量および使用方法
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	ステロール生合成阻害 (DMI)	3	種子重量の0.5%を種子粉衣
ベンレートTコート	チウラム ベノミル	有機硫黄 ベンゾイミダゾール	M3 1	乾燥種子重量の0.5%を種子粉衣

1) 農薬の化学構造や作用の特徴によって分類したもの。

2) 殺菌剤耐性菌対策委員会(FRAC)により、殺菌剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。系統名より細かく分類されている。なお、FRAC作用機構分類については、農薬工業会ホームページの農薬情報局「農薬の作用機構分類」を参照。



写真1 健全穂（左）と発病穂（右）

写真2 子実の中に充満している
黒色の胞子